

NTTデータ

社会情報基盤となる医療連携情報の提供を実現する新たなソリューションに注力

4疾病5事業へのIT活用と新たなソリューション提供を目指す

2008年4月からの後期高齢者医療制度の実施と特定健診義務化に加え、医療崩壊など社会問題化している医療分野の課題解決に向けて国（厚生労働省）が進める「4疾病5事業」に合わせた医療連携体制構築の動きが活発化している。またレセプト情報等の電子的連携による閲覧・活用の基盤となる社会保障カード導入に向けた動きも加速している。

こういった状況を踏まえNTTデータの目指す医療・ヘルスケア分野の注力する取組みについて、(株)NTTデータヘルスケアシステム事業本部医療福祉事業部長の富田 茂氏は、「私どもでは、最大の強みである救急

医療情報システムの導入実績や、約1,500以上の医療機関へのパッケージ導入実績を誇る『レセプト博士』などの提供といった強みを活かし、『4疾病5事業』へのICT活用を含め、新たなソリューションの提供を目指しています（図1参照）。さらに、当社では、医療施設内のシステムや施設間を連携するシステムを長年にわたって提供しています。この実績を活かし、行政・法人・個人を結ぶ公共サービス『社会情報基盤構築』に注力しています」と語る。

現代の医療で不足する部分を補完する「地域医療連携」が重要に

NTTデータはヘルスケア分野にお



(株)NTTデータ
ヘルスケアシステム事業本部
医療福祉事業部長
富田 茂氏



(株)NTTデータ アイ
医療福祉事業部 医療情報担当
課長
山田 圭氏

いて、勘定系（マネジメントする医療）・診療系（見える医療）・予防系（予防する医療）における、全ての領域のソリューションを提供している。そして、同社は現在、地域の病院・診療施設・関連機関などと住民をネットワークシステムで結び、オンラインでの情報交換や情報共有を行う「地域医療連携システム」に注力している。

「医師や医療機器等の医療リソースの不足などから、救急患者を病院側で受け入れられないという事態が発生し、社会問題化しています。NTTデータでは、この問題を解決するために、救急医療から介護までICTを活用し、救急医療システムをはじめ、連携ツール及びネットワークの課題を解決した地域医療連携のICT化ソリューションを目的に応じて提供しています。」(株)NTTデータ アイ 医療福祉事業部 医療情報担当 課長 山田 圭氏

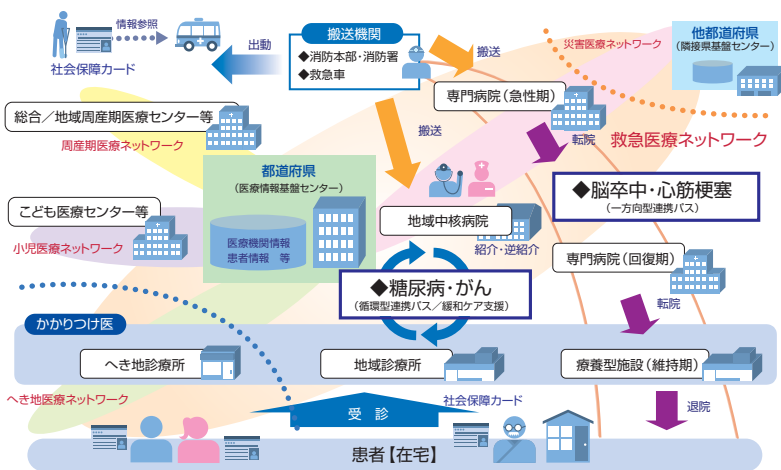


図1 「4疾病5事業」包括的システムイメージ

地域病院の紹介・逆紹介や診察予約を実現する「れんけい@ねっと」

地域連携を実現するシステム「れんけい@ねっと」は、地域の中核病院と診療所等の医療機関をセキュアなネットワークで結ぶことにより、病院の紹介・逆紹介や診療・検査予約などをオンラインで簡単かつスムーズに実現する。

この仕組みは、病院完結型の医療から地域完結型医療の実現を目指すサービスだ。地域の中核病院と診療所などが連携して機能を分担し、病状に応じて互いに患者を紹介しあい、必要な情報提供と情報の共有化を図る仕組みを容易に実現できる。

「インターネット等の既存の安価なネットワークを高セキュリティ化するNTTデータが開発した独自のオンデマンドVPNを活用しているため各医療機関全体のセキュリティを確保でき、セキュアなデータの授受を可能にしていることも特長です。」(株NTTデータ アイ 医療福祉事業部 医療情報担当 課長代理 柴 健一郎氏)

4 疾病診療を支援する疾病別連携パス支援サービス

さらにNTTデータは、地域連携ネットワークシステムを活用し、地域の患者の疾病別診療を支援する「疾病別連携パス」サービスを提供している。その一つが、中核病院と診療所等を、インターネットを通じてオンライン接続し、糖尿病患者の診療・検査データを送受信できるようにすることで、地域の糖尿病診療を支援する「糖尿病地域医療連携パス支援サービス」だ(図2参照)。

地域の診療ネットワーク構想で課題として上がっている4疾病(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病)のうち、糖尿病は、患者の動向をきめ細かにチェックし、専門医による定期的な診療が必要である。しかし、多くの専門医は中核病院に在籍しているため、地域の患者が通う地域診療所にまで医療サポートが行き届かないという課題があった。

糖尿病地域医療連携パス支援サービスは、中核病院側で蓄積された院内シ



(株)NTTデータ アイ 医療福祉事業部 医療情報担当 課長代理 柴 健一郎氏



(株)NTTデータ アイ 医療福祉事業部 医療情報担当 課長代理 木村 隆文氏

ステムのデータ(電子カルテ・オーダーリングシステム等)を基に、専門医が診療・検査計画を策定し、連携先の診療所の診療・検査結果を確認し患者状態を把握する。各診療所側では、専門医が策定した計画に基づいた診療・検査が実施できる仕組みだ。

「本サービスは、インフラ構築した地域連携ネットワーク上に疾病別連携パス機能を追加することで効果的に機能します。この仕組みにより、連携体制が機能し、中核病院と診療所の双方でパスの進捗状況が管理でき、バリエーション発生時にも患者に対し早急な対処が期待できます。」(株NTTデータ アイ 医療福祉事業部 医療情報担当 課長代理 木村 隆文氏)

NTTデータの提供する地域医療連携サービスは、まず、オンデマンドVPNで実現したインフラを基に地域医療連携の基盤を構築する。さらに、その基盤上に疾病別連携パス支援サービスを提供する。そして、社会情報基盤となる「つなぐ医療」を積極的に推進していく。

●お問い合わせ先●

株式会社NTTデータ
ヘルスケアシステム事業本部
医療福祉事業部 医療情報ネットワーク担当
TEL:050-5546-2462

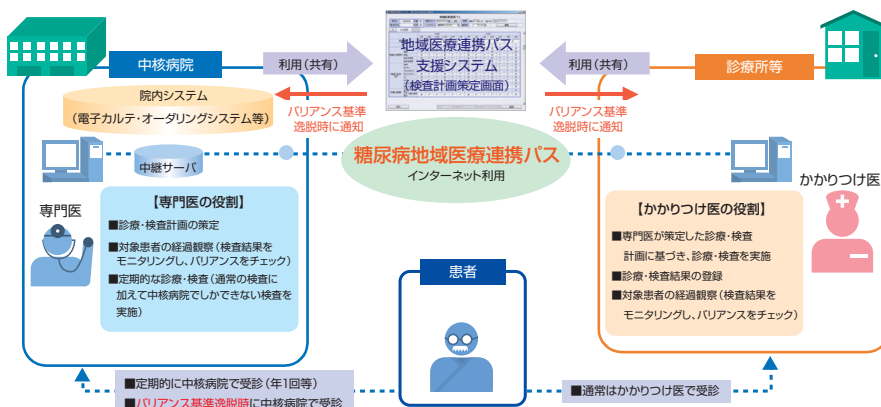


図2 糖尿病地域医療連携パス支援サービス